

企業景況・動向調査

●はじめに

取引先を対象に、当地区企業の景況・動向調査を目的としたアンケートを実施した。概要は以下の通り。

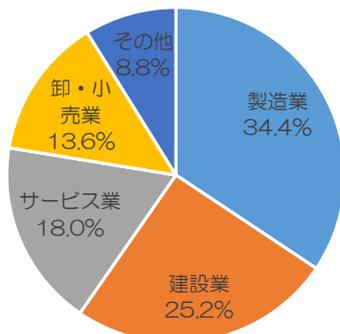
●調査概要

調査時期 : 令和5年7月19日(水)～令和5年7月28日(金)

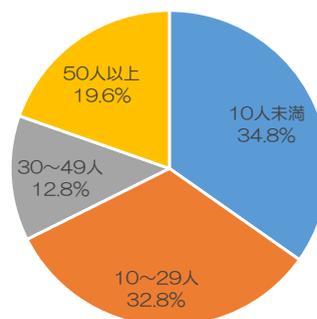
調査対象 : せいしんビジネスクラブ会員

回答数 : 対象企業数406社 回答数250社 有効回答率:61.5%

《業種内訳 (n=250)》



《従業員規模内訳 (n=250)》



●要旨

～ 2023年下半期、売上高は5割弱の企業が「横ばい」を見込み、
経常利益は8割超が黒字確保を見通す～
～ 今後の懸念材料は「人材の確保・育成」、「原油・原材料、仕入価格の変動」～

◆ 売上高実績と見通しについて

- 売上高実績(2023年1月～6月)は、「増加」が38.2%、「減少」は18.9%となった。
- 売上高見通し(2023年7月～12月)は、「増加(34.9%)」、「減少(15.3%)」が低下する一方、「横ばい(49.8%)」が上昇した。

◆ 経常利益実績と見通しについて

- 経常利益実績(2023年1月～6月)は、「黒字」が76.4%となった。
- 経常利益見通し(2023年7月～12月)は、「黒字」が85.2%と、現状を上回る見通しとなった。

◆ 雇用状況・採用予定について

- 現在の雇用状況は、製造業と建設業で「不足」が最多となり、卸・小売・サービス業は「適正」が最多となり、業種により人手不足感にバラツキがある。
- 採用予定について、新卒・中途・非正規のいずれも「採用予定なし」「未定」が増加している。採用活動については消極化していることが窺える。

◆ 設備投資について

- 現在の設備投資状況は、「適正」が62.3%と過半に達し、「不足」は31.2%と前回調査から9.8ポイント低下しており、設備不足感は和らいでいる。

◆ 賃上げの状況について

- 賃上げの状況について、「実施した」67.1%、「実施していない」32.9%となった。

◆ インボイス制度への対応状況について

- インボイス制度への対応状況は「対応済み」が89.9%で、「未対応」は7.7%となった。インボイス制度開始を令和5年10月に控え、対応が進んでいる様子が窺える。

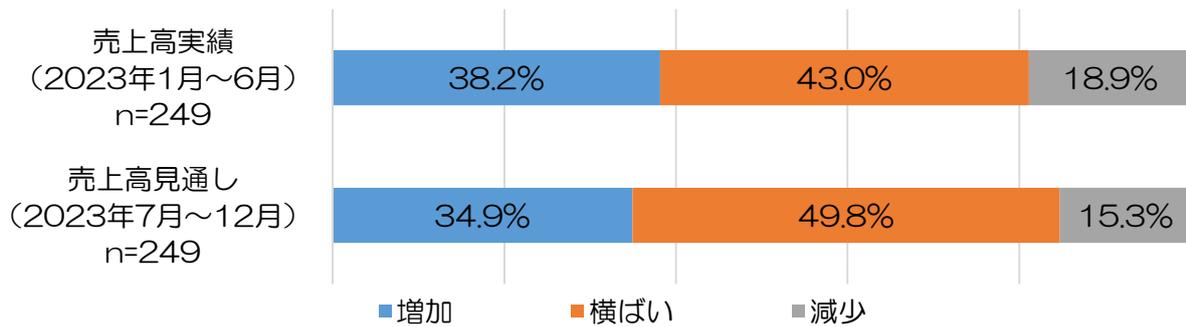
◆ 今後の懸念材料について

- 今後の懸念材料は、「人材の確保」が57.0%で最多となり、次いで「人材の育成」(50.2%)、「原油・原材料、仕入価格の変動」(47.4%)となった。
- 依然として「人材の確保・育成」が重要視する経営課題となっている。また、原油・原材料、仕入価格のさらなる高騰を警戒している。

※本アンケートの数値は小数点第二位を四捨五入しております。

Copyright (C) 2023 THE SEISHIN SHINKIN BANK. All Rights Reserved.

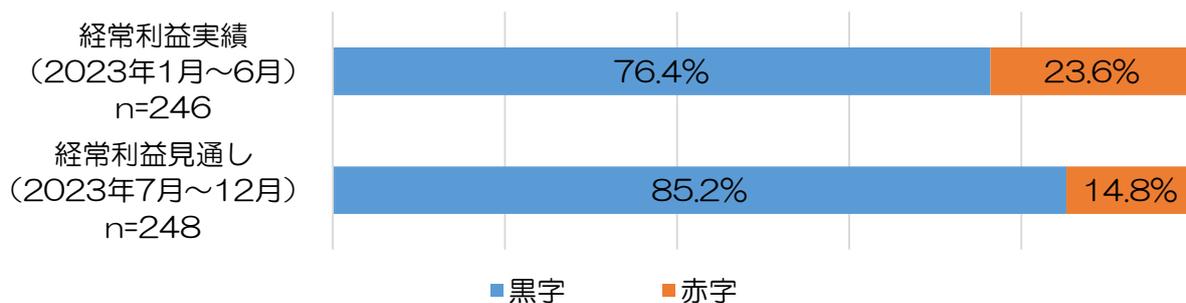
1. 売上高実績と今後の見通しについて (SA)



売上高実績と今後の見通しについて尋ねたところ、2023年1月~6月の売上高実績(2022年7月~12月対比)は、「横ばい」(43.0%)が最多となり、次いで「増加」(38.2%)となった。

2023年7月~12月の見通しについては、「横ばい」が49.8%と6.8ポイント上昇し、「増加」(34.9%)と「減少」(15.3%)の割合が低下した。

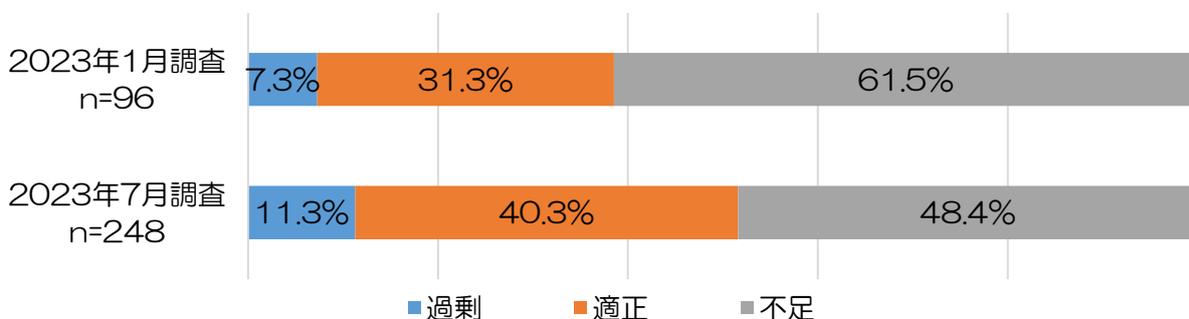
2. 経常利益実績と今後の見通しについて (SA)



経常利益実績と今後の見通しについて尋ねたところ、2022年7月~12月実績は、「黒字」が76.4%となった。2023年7月~12月の見通しについては、「黒字」が85.2%と、実績と比べ8.8ポイント増加した。

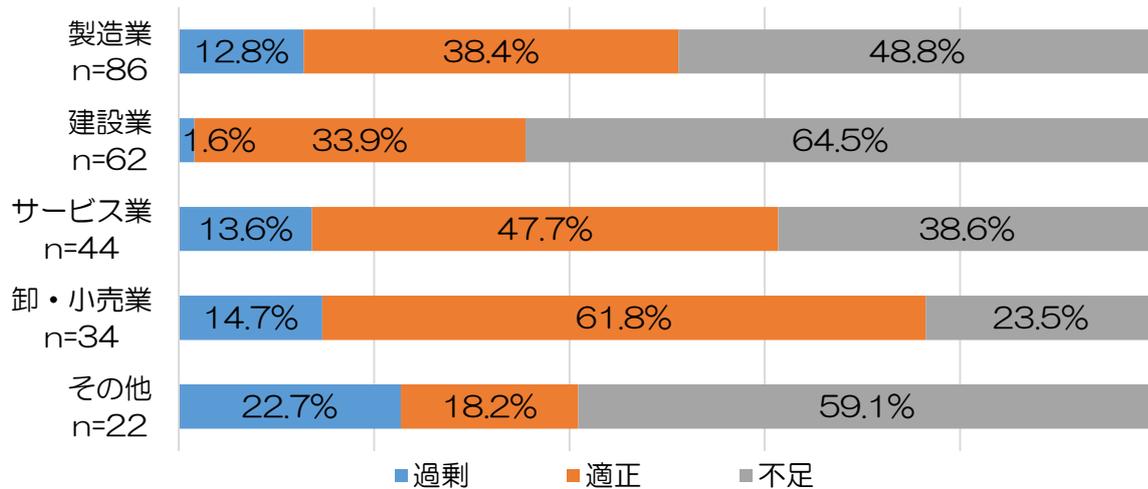
3. 雇用状況について

3-1. 現在の雇用状況について (SA)



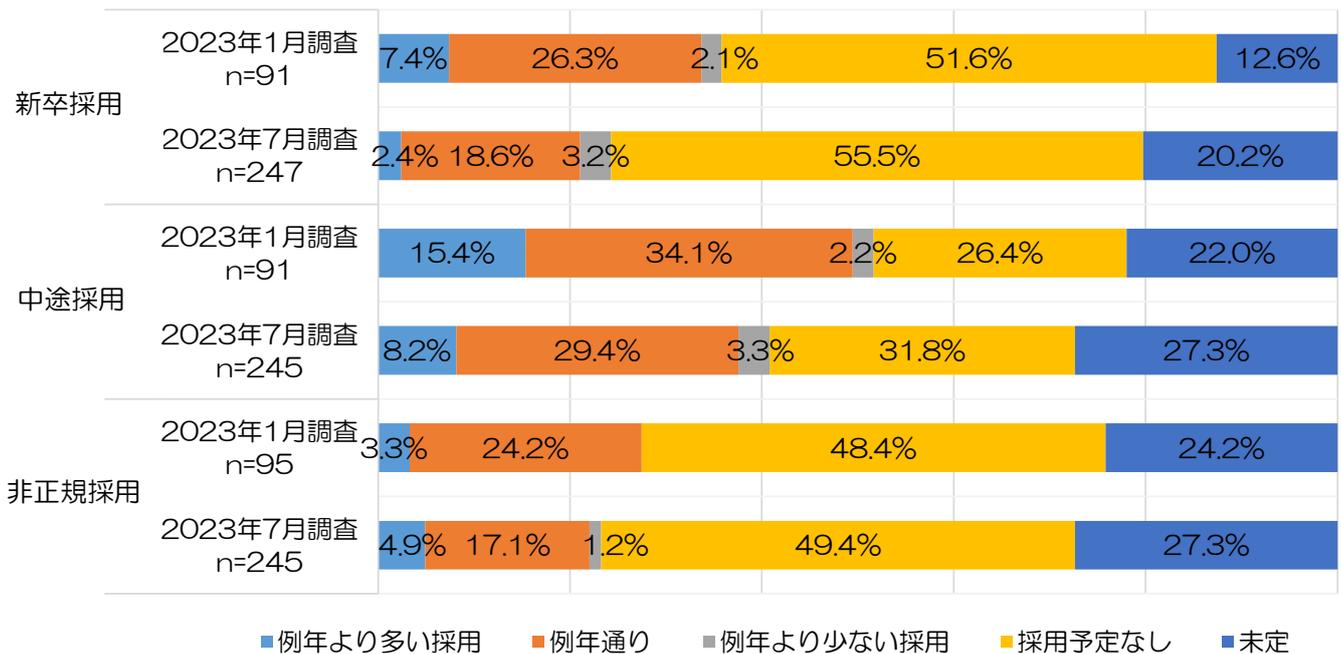
現在の雇用状況を尋ねたところ、「不足」が48.4%で最多となり、次いで「適正」(40.3%)、「過剰」(11.3%)となった。前回調査より、「過剰」、「適正」が増加し、「不足」と回答した割合は13.1ポイント低下した。

【業種別】現在の雇用状況について



現在の雇用状況を業種別に見ると、製造業と建設業では「不足」と回答する企業が最も多く、依然として人手不足の状況が続いていることが分かる。一方で、サービス業、卸・小売業は、「適正」とする企業が最も多くなり、製造業・建設業に比べ人手不足感は薄いことが窺える。

3-2. 今年の採用予定について (SA)



今年の採用予定について尋ねたところ、新卒採用については、「採用予定なし」が55.5%で最多となり、次いで「未定」(20.2%)、「例年通り」(18.6%)の順となった。新卒を採用する予定の企業(「例年より多い採用」、「例年通り」、「例年より少ない採用」の合計)は24.2%と、前回調査(35.8%)を11.6ポイント低下した。

中途採用については「採用予定なし」が31.8%で最多となり、次いで「例年通り」(29.4%)、「未定」(27.3%)の順となった。「採用予定なし」は、前回調査(26.4%)から5.4ポイント上昇した。

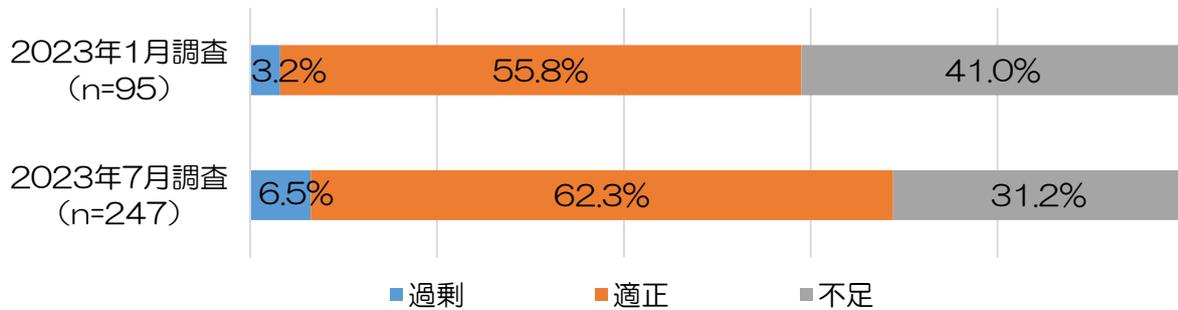
非正規採用については「採用予定なし」(49.4%)が最多となり、次いで「未定」(27.3%)、「例年

通り」(17.1%)の順となった。非正規採用については、「例年より多い採用」が前回調査より1.6ポイント上昇した。

採用については、新卒、中途、非正規のいずれの採用予定も前回調査から「採用予定なし」、「未定」が増加している。人手不足感はあるものの、採用活動については消極化している状況が窺える。

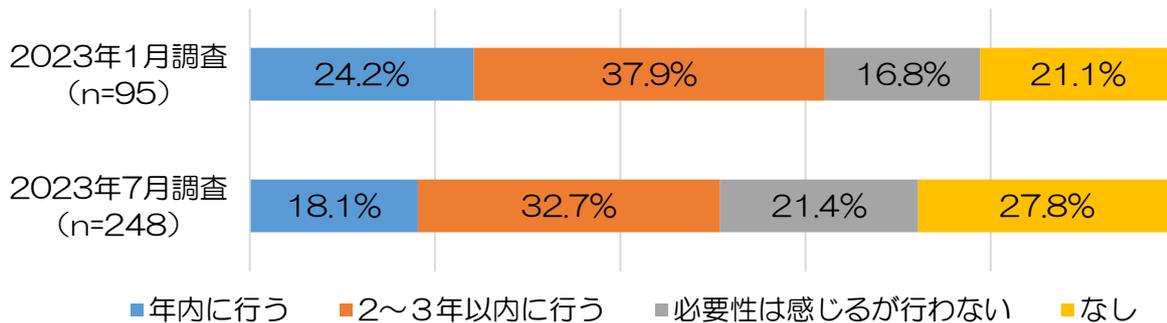
4. 設備投資について

4-1. 現在の設備状況について (SA)



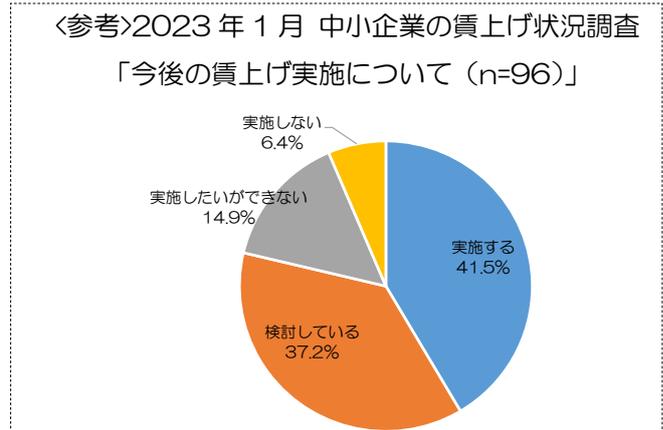
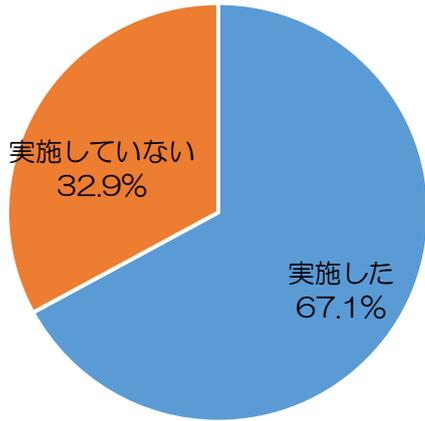
現在の設備状況について尋ねたところ、「適正」が62.3%で最多となり、次いで「不足」(31.2%)となった。前回調査と比べ、「過剰」または「適正」が合わせて9.8ポイント上昇し、設備不足感は和らいでいることが窺える。

4-2. 今後の設備投資の予定について (SA)



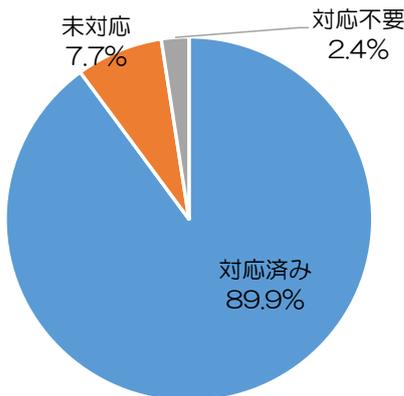
今後の設備投資の予定について尋ねたところ、「年内に行う」は18.1%と、前回調査から6.1ポイント低下し、「2~3年以内に行う」は32.7%と5.2ポイント低下した。「なし」は27.8%と6.7ポイント上昇した。企業の設備投資意向は減退傾向にある一方で、「年内に行う」、「2~3年以内に行う」とする先の合計50.8%と、前問の「4-1. 現在の設備状況について」で「不足(31.2%)」と回答した企業を上回っており、「適正(62.3%)」な企業でも、更なる設備投資を検討していることが窺える。

5. 賃上げ状況について (SA、n=249)



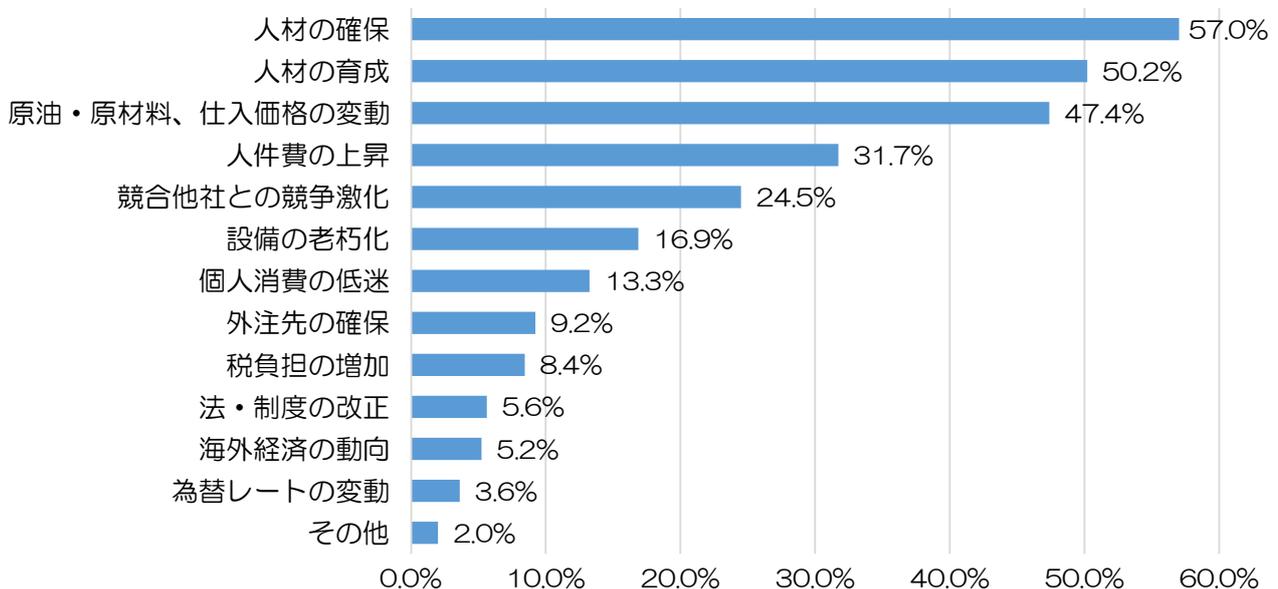
賃上げの状況について、「実施した」67.1%、「実施していない」32.9%となった。「実施した」と回答した企業は、2023年1月の『中小企業の賃上げ状況調査』にて、「実施する（41.5%）」を25.6ポイント上回っている。「検討している（37.2%）」と回答した企業についても、既に賃上げを実施していることが窺え、積極的な賃上げが行われている。

6. インボイス制度への対応状況について (SA、n=248)



インボイス制度への対応状況については、「対応済み」が89.9%、「未対応」の企業は7.7%となった。インボイス制度開始を令和5年10月に控え、対応が進んでいる様子が窺える。

7. 今後の懸念材料について (MA、n=249)



Copyright (C) 2023 THE SEISHIN SHINKIN BANK. All Rights Reserved.

本レポートは、当金庫が実施したアンケートに基づき集計分析したもので、無断で複写・転写することはできません。また、本レポートは情報提供が目的であり、お客さまの決定、行為、およびその結果について、当金庫は一切の責任を負いません。

今後の懸念材料について尋ねたところ、「人材の確保」が57.0%で最多となり、次いで「人材の育成」(50.2%)、「原油・原材料、仕入価格の変動」(47.4%)の順となった。

人材の確保・育成、人件費の上昇など、「人」に関する項目が上位に挙げられており、最も重要視する経営課題となっている。また、原材料・仕入価格のさらなる高騰を警戒する様子が窺える。

(静清信用金庫 経営相談部 令和5年8月作成)